

1 単元設定の理由

(1) 単元について

本校がある具同地区は、四万十川と中筋川の二つの大きな川に挟まれてできた地域であり、これまでも数多くの遺跡が発掘され、遺跡の宝庫と言われている。このことから、具同地区には古来より、山、川、平地の恩恵を受けながら、多くの人々が生活できうる豊かな営みがあったと考えられる。

具同地区には、具同中山遺跡群、アゾノ遺跡、入田遺跡、坂本遺跡、栗本城跡、香山寺跡等、これまでに約30箇所から遺跡が発掘されている。中でも、具同中山遺跡群は、祭祀遺跡として全国的にも有名な遺跡であり、この遺跡群からは、歴史的にも価値のある勾玉も見つかっている。また、アゾノ遺跡は、日本で初めて地震の痕跡である噴砂が発見された貴重な遺跡として知られている。その他、入田遺跡からは、大昔の生活を知るための手がかりとなる打製石斧や縄文土器が数多く発掘されている。このように、具同地区には、深く知り、詳しく調べる値打ちのある遺跡が数多く存在している。

本単元では、これらの遺跡を中心に歴史について深く調べ、分かりやすくまとめたことを広く伝えていく学習を通して、ふるさとの歴史に対する誇りや愛着を感じさせ、ふるさとを大切にすることを育んでいきたいと考える。

(2) 育てようとする資質・能力及び態度について

本単元では、「学習方法に関すること」の「情報を収集する力」と「まとめ・表現する力」に重点を置き、学習を組み立てていく。「情報を収集する力」については、「どうすれば疑問を解決できそうか」「どこに行き、誰に聞けば疑問が解決できそうか」等、児童自らが考え、解決策を探る活動を仕組んでいきたい。また、「まとめ・表現する力」については、自分たちが調べ、知ったことをより多くの人たちに伝えていくための手段や、より分かりやすく、効果的に伝えるための方法を探究する活動を大切にしていきたい。

(3) 児童について

本学級の児童は、全体的に見て、与えられた課題に対しては真面目に最後まで取り組むことができるが、自分の考えを述べる場面では消極的になってしまう傾向にある。

児童はこれまで、地元の四万十川やトンボ公園等を素材として、調べ学習や体験学習を行ってきた。5年生時には、米作りから販売までの活動を通して、地域のことを知り、地域の人々とふれ合う学習を行ってきた。学習する中で、多くの人たちに自慢し誇れる豊かな自然が、自分たちのふるさとはあることに気付いている児童も多くいるが、本単元で学習する具同地区の遺跡や歴史については、児童にとって未知のことが多く、値打ちある数多くの遺跡が発掘されていることも、ほとんどの児童が知らないことが予想される。

また、今年度一学期に学習した「戦争や平和について考える」の単元では、広島で起きたことや原爆、戦争について調べていく中で、疑問となったこと、もっと知りたいことをさらに深く調べ、それらをグループでまとめ、5年生に伝える学習を経験してきた。その学習では、積極的に課題をつかんだり、解決策を探る方法や情報を収集するための手段を自ら考えたりすることに弱さを感じる児童が多かった。

(4) 指導について

指導にあたっては、単元を通して、児童が常に具同地区の遺跡や歴史に興味をもって疑問や課題をつかみ、意欲的に調べたり、調べたことをまとめ発信したりできる構成を意識していく。

そのため、単元の初めに具同地区の遺跡に関するアンケートを児童及び児童の家族からとってみる。アンケート結果はおそらく、遺跡の存在についてほとんどの児童及び児童の家族は知らないことが予想されるので、児童にとって、自分たちのふるさとである具同地区から、数多くの値打ちある遺跡が発掘されているという事実は大きな驚きになるはずである。また、児童だけでなく家族の人たちにも、その事実が知られていないことが分かった時の驚きや、予想のずれは、遺跡のことを詳しく調べてみたい、遺跡のことを知らない人にも広めたいという、学習の意欲につながるのではないかと考える。

単元が進む中では、社会科の学習とも関連させ、資料館や発掘現場の見学、専門家の話を聞く活動も児童の要望に応えるかたちで設定していくとともに、自分たちが知らなかった魅力あるふるさとの歴史について、より効果的な表現方法を考え、発信する学習を通して具同地区の遺跡や歴史に迫っていきたい。

2 単元の目標

- 具同地区の遺跡について興味・関心を持ち、調べ学習を通して得た情報を整理・分析し、仲間と協力しながら、表現方法を考えることができる。(学習方法)
- 具同地区の遺跡について話し合い表現する活動を通して、ふるさとの歴史を知り、ふるさとの対する誇りや愛着を持つことができる。(自分自身)
- ふるさとの歴史を調べ、友だちや家族、地域の人にも自分たちが知ったことを伝えることができる。(他者や社会との関わり)

3 単元の評価規準

視点	育てたい力	目指す子どもの姿
学習方法に関する事	① 課題を設定する力	ア 具同地区の遺跡について、自分たちの疑問を解決していくためにはどうすればいいかという課題を設定している。
	② 情報を収集する力	ア 分からないことを調べるための手段を積極的に考えようとしている。 イ 施設見学や専門家から、課題に合わせた情報を収集することができている。
	③ 整理・分析する力	ア 調べ学習で集めた情報を整理し、自分たちが伝える遺跡について分析している。
	④ まとめ・表現する力	ア 自分たちが伝えたい遺跡について、たくさんの人に興味を持ってもらうために工夫し、仲間と協力しながら、より分かりやすくまとめ表現している。
自分自身に関する事	⑤ 目標を決め自ら意思決定する力	ア 調べたことを効果的に伝えるために、自分たちができることを考えている。
	⑥ 自分の生き方を考える力	ア ふるさとの歴史を知り、地域との関わりを深めることで、ふるさとに対する誇りや愛着をもつことができている。
他者や社会との関わりに関する事	⑦ 他者と関わる力	ア 専門家から積極的に話を聞き、疑問や課題を解決しようとしている。
	⑧ 社会と関わる力	ア 調べたことを友だちや家族、地域の人に分かりやすく、具体的に伝えることができている。

4 単元計画（全28時間）

学 習 活 動	指導や支援のポイント	評価規準
ふるさと四万十川！（3時間）		
○ふるさとを流れる四万十川でのカヌー体験で学んだことを作文にまとめる。 ○大昔から、四万十川や中筋川は人々の生活にとって、どんな存在であったのかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・全国に知られている四万十川がふるさとはあり、その四万十川でカヌー体験ができる喜びを感じさせたい。 ・大昔から四万十川や中筋川は人々が生活するためにはなくてはならない自然（人々の移動、物資の運搬）であったことに気づかせる。 ・社会科の学習（縄文・弥生時代）をふり返り、米作りに必要だった水の大切さに気づかせたい。 	⑥ーア
具同地区からも遺跡は見つっているのだろうか？（4時間）		
○具同地区から遺跡が見つっているかどうかを予想する。	<ul style="list-style-type: none"> ・具同地区の遺跡に関するアンケートを児童と児童の家族からとる。 ・児童や家族は、遺跡についてほとんど知らないと予想されるので、実はたくさんの遺跡が具同 	①ーア

<p>○どこに行けば遺跡について知ることができるか考える。</p> <p>○郷土資料館に行き、具同地区の遺跡について調べる。</p>	<p>地区から見つかっているという事実を知ったときの驚きを、これからの学習の意欲付けにつなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童からの意見を大切にしながら、郷土資料館に行けば分かるかもしれないことを伝える。 ・積極的に調べ、具同地区の遺跡について分かったことだけでなく、疑問や課題を持つことができる見学にする。 	<p>①ーア</p> <p>②ーア</p> <p>②ーイ</p>
<p>具同地区の遺跡のことをもっと知ろう！（10時間）</p>		
<p>○香山寺に登り、遺跡の場所や具同地区の様子について考える。</p> <p>○専門家を招き、具同地区の遺跡について詳しい話を聞く。</p> <p>○埋蔵文化財センターによる考古学教室に参加する。</p> <p>○入田遺跡の発掘現場を見学する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・詳しく遺跡について知るため、専門家の方に同行をお願いし、香山寺の頂上から具同地区の歴史についての話をしてもらう。 ・より詳しく具同地区の歴史を知るために、専門家の方を招き、遺跡に関する講話をってもらう。話を聞くことで、具同の歴史について、より興味を持つことができるようにする。 ・実際に遺跡や遺物を見たり触れたりすることを通して、古代の人々の暮らしに思いを馳せることができるようにする。 	<p>②ーイ</p> <p>⑦ーア</p> <p>②ーア</p>
<p>遺跡について学び、まとめたことをたくさんの人に広めよう！（11時間）</p>		
<p>○具同地区の遺跡をより多くの人に知ってもらうにはどうすればよいか考える。</p> <p>○それぞれの遺跡について、チームに分かれ、もっと知りたいことを考える。</p> <p>○遺跡について分かったことや気づいたこと等をまとめる。</p> <p>○チームごとにまとめたものを交流し合い、改善点を話し合う。 [本時]</p> <p>○話し合ったことをもとに、再度まとめ直す。</p> <p>○調べたことを多くの人に知ってもらうための活動をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたい相手と、より効果的に伝える方法を児童自らが考えられるよう促す。 ・もっと知りたいことが出てきたときの情報収集の手立てについて、児童自らが考えるよう促す。 ・より効果的に伝えることができるまとめ方や表現方法をチームで協力しながら考えられる活動にしていきたい。 ・互いの表現方法を検討し合い、分かりやすく伝えるための改善点について活発な交流ができるよう仕組む。 ・話し合いで決定した改善点を確認しながらまとめ直しを行う。 ・自分たちの力で調べたふるさとの歴史を伝える喜びを、見出すことができる活動にしていきたい。 	<p>⑤ーア</p> <p>③ーア</p> <p>④ーア</p> <p>④ーア</p> <p>④ーア</p> <p>⑧ーア</p>

5 本時の学習（20/28時間）

(1) 目標

各チームの意見を聞き、まとめ方について、より伝わりやすい表現方法を考えることができる。

(2) 準備物 大型テレビ 書画カメラ 冊子

(3) 展開

学 習 活 動〔発問（★）〕	学習活動への支援（○）と評価（◆）
<p>1. 前時にチームごとに検討した内容に関する意見を出し合う。 （具同中山遺跡群チーム、入田遺跡チーム 坂本遺跡チーム、アゾノ遺跡チーム 栗本城跡チーム、香山寺跡チーム）</p> <p>2. 本時のめあてを確かめる。</p>	<p>○良いところと改善点について発表するように各チームに伝える。 ○出てきた意見を、まとまりごとに板書する。</p>
<p>具同地区の遺跡について、統一感のある冊子にしていこう！</p>	
<p>3. 各チームの意見を聞き、より内容が伝わるまとめ方にしていくための話し合いをする。</p> <p>4. 話し合いで決定したまとめ方の工夫や改善点を全体で確認する。</p> <p>5. 次時の確認をする。</p>	<p>○話し合いから出されたまとめ方の工夫や統一したらよいところなどを、全体で共有できるようにしていく。（比較・選択等） ◆意見を聞き、まとめ方についてより伝わりやすい表現方法を具体的に考えることができる。 〔④ーア〕</p> <p>○話し合いで決まったことをレイアウト用紙にまとめていく。</p>

6 板書計画

具同地区の遺跡について、より伝わる冊子にしていこう！

（内容について）

- ・遺跡の特徴が必要。
- ・遺跡の年代も必要。
- ・地図があれば分かりやすい。
- ・写真があった方が分かりやすい。
- ・絵を入れた方がいい。
- ・まとめを入れた方がいい。
- ・メンバーの名前は。

（レイアウトについて）

- ・見出しなど、全体で統一した方が見やすい。
- ・遺跡の名前、年代、特徴などを書く順番を決めたら見やすい。
- ・文字ばかりにしない。
- ・吹き出しや枠で囲んで見やすくする。

多くの人に
各チームから出た意見に対して

- ・遺跡の特徴や年代は必ず入れた方がいい。
- ・五つの遺跡の場所が分かる地図を一枚入れたら分かりやすい。
- ・まとめは必要ない。
- ・最初に遺跡の名前、次に年代、特徴という順番を全体で統一した方が、見る人が分かりやすいと思う。

「全体での確認」

より伝わる一つ冊子
にするために